

1.1 シャインマスカットの栽培法試験

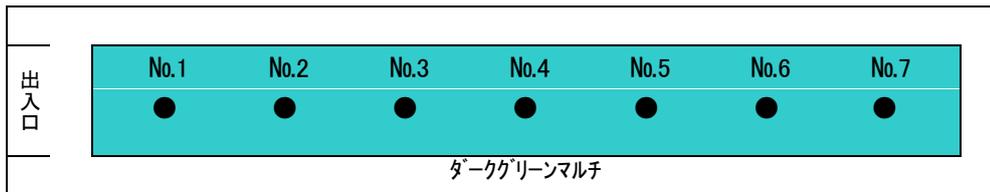
背景と目的

J Aあさひかわでは、新規作物として雨よけハウスによるシャインマスカット栽培を検討していますが、寒冷地である市内での栽培実績がないことから、当地に適した栽培方法を検討するとともに、栽培可能性について検証を行いました。なお、本年度は、栽培1年目の苗木の定植から冬季の枝下ろしまでの生育状況について報告します。

関係先 市内農協

耕種概要

- ・作型：雨よけハウス栽培（無加温）
- ・ハウス概要：間口 7.2m×長さ 40m，高さ 3.5m，妻窓・天窗あり，防虫ネットなし
- ・栽植密度：ハウス中央部に1条植え，株間 5m，植栽本数 7本
- ・苗木：接木苗を使用
- ・施肥：土壌分析結果より無施肥
- ・土壌改良：堆肥施用（耕起時全面 3t，定植時 6kg/株）
- ・圃場図



< 圃場内の状況 (9/28) >

調査項目

- ・苗質調査（苗丈，枝径，根長，根径，芽数）
- ・生育調査（発芽期，展葉期，主枝長，幹径，主枝径等）

栽培管理の概要

(1) 栽培日程

日付	作業内容	日付	作業内容
3月9日	天井ビニール展張	6月9日	芽かき
3月15日	ハウス全面に堆肥施用 (3t)	8月20日	摘心, 予備枝剪定
4月5日	サブソイラ施工	10月18~25日	棚設置
4月19日	深耕ロータリーで耕起	10月26日	天井ビニール撤去
5月10日	標準ロータリーで耕起	12月6日	冬季剪定
5月11日	定植	12月7日	枝下ろし

(2) 定植方法

凍害対策として、冬期間は樹を雪の下にするため、定植は苗木を斜め45度から60度の角度をつけて植えました（写真参照）。

(3) 灌水方法

株元（マルチ下）に灌水チューブを2本設置し、9月中旬ごろまで1週間に1回程度灌水しました。なお、1回の灌水時間は10分間としました。

(4) 誘引用棚設置

地上から190cmの高さに22.2mmの直管パイプを使用した主枝誘引用棚を設置しました。また、新梢誘引用の棚線はエスター線を使用し30cm間隔で設置しました。

(5) 剪定等の管理

ア 生育初期の芽かき

苗木から発生した勢いの強い新梢のうち、主枝用と予備枝用の2本を残して全てかき取りました。

イ 生育中の剪定

生育中に発生する副梢は適宜剪定しましたが、7月20日に鹿がハウス内に侵入し、葉や枝に食害が発生したため、予備枝の剪定は行わず、新葉の発生を促し葉面積の確保に努めました。その後は、好天に恵まれ、急速に回復したことから、8月20日に予備枝の剪定と主枝の摘心を行いました。

ウ 冬季剪定

11月下旬に主枝の落葉が完了し、2m以上まで登熟を確認できたことから、12月6日に剪定を行いました。また、剪定後の主枝長は平均で約2mとなりました。なお、主枝から発生した副梢については、全て根元から剪定しました(写真参照)。

エ 枝おろし

樹を支えていた支柱を取り外し、早期に積雪下となるよう地面に寝かせるように誘引しました。

主な調査結果

(1) 発芽期及び展葉期(表1)

7本の平均を表1に示しました。

発芽は定植から1週間程度で確認され、展葉は発芽から5日程度で確認されました。

※発芽期：20~30%の芽で第1葉が見え始めた日

※展葉期：発芽数の20~30%で第1葉が開いた日

表1 発芽期及び展葉期

発芽期	5/19
展葉期	5/24

※定植日：5/11

(2) 主枝長(図)

定植した7本のうち、鹿の食害による摘心の被害がなかった3本について、主枝長の推移を右図に示しました。おおむね同様の傾向を示しており、8月20日の摘心時にはいずれも4.5m以上まで伸長しました。

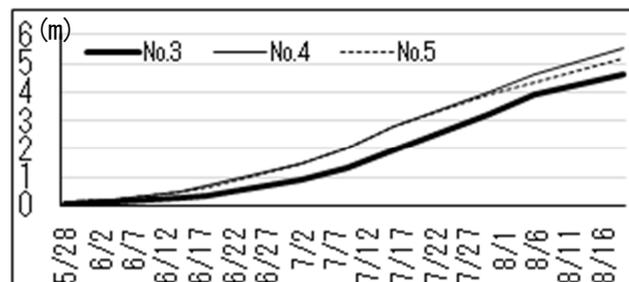


図 主枝長の推移

(3) 幹径及び主枝径(表2)

幹径は、定植から約5か月で4倍以上の太さとなりました。また、主枝径は、18mmでした。

※幹径：接木部の上部10cmの太さ

※主枝径：冬季剪定後の10芽と11芽の中間部の太さ

表2 幹径及び主枝径

項目	調査日	平均(mm)
幹径	5/19	6
	10/14	25
主枝径	12/7	18



<定植後の苗木>



<生育中の状況(8/19)>



<冬季剪定後(12/6)>